

JA全厚連情報



久岡議長（JA高知厚生連・経営管理委員会会長）の議事運営

目 次

- J A厚生事業にかかる令和5年度の活動についてまとめた冊子を作成 1
- リハビリ部門における2024年度診療報酬改定におけるポイントと経営対応について研修
厚生連リハビリ部門応援プログラムを開催 2
- 事務部門における2024年度診療報酬改定におけるポイントと経営対応について研修
厚生連事務部門応援プログラムを開催 4
- 令和6年度以降のDPCデータの入手・管理等について協議
事業企画委員会（実務者PT）を開催 6
- 財務会計の基礎について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEB開催 10
- 第76回通常総会を開催
令和5年度（第76年度）貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び
注記表並びに事業報告を承認 11

・通信員だより

- 防災ヘリコプターによる搬送訓練を実施しました（かづの厚生病院） 16
- 第72回福島県農村医学会総会開催（J A福島厚生連） 17
- 健康相談を開催（J A茨城県厚生連） 18
- さつまいもの苗植え（相模原協同病院） 19
- 伊勢原協同病院 ELNEC-J コアカリキュラム 2024 を開催しました（伊勢原協同病院） 20
- 長野県 A・コープから車椅子を寄贈いただきました（J A長野厚生連） 21
- 2024年度 幹部看護・介護職員育成研修会を開催しました（J A長野厚生連） 22
- 「高校生の一日看護見学」を開催しました（厚生連高岡病院） 24
- J Aとぴあ浜松と遠州病院の協定調印式（J A静岡厚生連遠州病院） 25
- 医療機能連携協定調印式（J A静岡厚生連静岡厚生病院） 26
- 脳卒中市民講座を開催しました（鈴鹿中央総合病院） 27
- 管理・監督者研修会を開催しました！（J A鹿児島厚生連） 28



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 歸山 好尚



J A厚生連

J A厚生事業にかかる令和5年度の活動について まとめた冊子を作成

本会では、J A厚生事業の活動実績を年度ごとに取りまとめるとともに、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」の森山会長をはじめとする会員議員 98 名、J A全中・県中央会、J A並びに厚生連及び各施設に配布している。

これは、新型コロナウイルス感染症への各厚生連の対応等を広報の一環として関係者に配布したのがはじまりとなり、令和2年から同4年までについて厚生連病院を中心にJ A厚生連グループの新型コロナ対応を取りまとめている。

また、新型コロナ対応で支援いただいたJ Aグループ（J A全中・J A全農・J A共済連）を始めJ R Aへの感謝も込めたものとなっている。

その後、新型コロナは、令和5年5月8日に5類となった。

今般（令和6年6月）に取りまとめた冊子は、「J A厚生事業にかかる令和5年度の活動について」として令和5年度を中心に活動内容を取りまとめた。

令和5年度の特徴としては、平成13年以来の税制改正要望として、厚生連病院の非課税措置の要件となっている有償病床の割合の見直しに取り組み、要望通り認められた。

見直し実現までの経過として、J A愛知厚生連 江南厚生病院及びJ A北海道厚生連 旭川厚生病院での農民の健康を創る会（以下「創る会」）の現地視察の概要や創る会総会並びに農林部会及び自民党税制調査会の議論についても掲載している。

加えて、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、厚生連病院からのDMAT隊派遣は、延べ75隊464人であった。また、被災地からの患者受け入れや、医療コンテナの提供等についても掲載した。

なお、当該震災対応に当たっては、17厚生連及び本会に対して農林水産大臣の感謝状が手交された。

リハビリ部門における2024年度診療報酬改定におけるポイントと経営対応について研修

厚生連リハビリ部門応援プログラムを開催

「厚生連医療スタッフ応援プログラム」は、厚生連病院の医療スタッフが抱えるテーマについて、部門別の講演やディスカッションによる情報共有、解決の一助となるような場を提供することを目的としている。令和6年度は、診療報酬改定・介護報酬改定をテーマに、5月27日の厚生連老健施設応援プログラムに加え、今回の厚生連リハビリ部門応援プログラムを開催した。

6月25日、厚生連リハビリ部門応援プログラムをWEBで開催し、病院のリハビリ部門に所属している管理職・職員など42事業所から86名が参加した。

今回開催した厚生連リハビリ部門応援プログラムでは、ASK梓診療報酬研究所 所長 中林 梓 氏から「リハビリ部門における2024年度診療報酬改定におけるポイントと経営対応」について講演していただいた。

中林氏は、今回の診療報酬改定は、「超高齢化社会がすすんでいく中で、医療費適正化等の観点から、寝たきりを予防するための自立支援・重度化防止の取り組み、具体的にはリハビリ、栄養管理、口腔管理の一体的な運用がポイントの1つとなっている」とした。「今回の診療報酬改定において、リハビリに関連する改定対応で求められるのは、院内・多職種・法人内連携、医療介護DXへの対応、オンライン活用の拡大、認知症対策のリハビリ、要介護者へのリハビリの工夫である。特に、地域のリハビリニーズを把握し、通所リハ、訪問リハの事業所等との連携関係を考えておいていただきたい。また、医療介護DXへの対応は避けては通れない。通所リハ等の事業所とのオンラインでのカンファレンスを行うことなどから取り組んでいただきたい。」と述べた。

また、講演後にはグループディスカッションを実施した。他厚生連の同規模病院と診療報酬改定への対応の中で実際に困っていること（課題、他施設に聞きたいこと）等をテーマに意見交換が行われた。

参加者からは、講演内容について「リハビリに視点を置いた具体的事例などが交えられており、分かりやすかった」「要点をかみ砕き、解りやすく説明していただいたので、とても有意義な講義だった」「細かな部分まで丁寧にご説明いただいたので、深く理解できた」等の感想が寄せられた。グループディスカッションについては、「情報交換は有

意義だった」「各病院の実情や自病院の取り組み状況と照らし合わせることができ、とても参考になった」「リハビリ部門の課題や導入を検討していた点など、全国レベルでどのようにされているか確認ができて大変参考になった」等の感想が寄せられた。

全国厚生農業協同組合連合会

厚生連リハビリ部門応援プログラム

リハビリ部門における 2024年度診療報酬改定に おけるポイントと経営対応

講師 (株)ASK梓診療報酬研究所
所長 中林 梓

1



ASK梓診療報酬研究所 所長 中林 梓 氏

事務部門における2024年度診療報酬改定における ポイントと経営対応について研修

厚生連事務部門応援プログラムを開催

本会は7月12日、厚生連事務部門応援プログラムをWEBで開催し、本所（部）及び病院の管理職・職員など29事業所から54名が参加した。

「厚生連医療スタッフ応援プログラム」は、令和6年度の診療報酬改定・介護報酬改定をテーマに、5月27日の厚生連老健施設応援プログラム、6月25日の厚生連リハビリ部門応援プログラムに加え、今回の厚生連事務部門応援プログラムを開催した。

今回開催した厚生連事務部門応援プログラムでは、ASK梓診療報酬研究所 所長 中林 梓 氏から「事務部門における2024年度診療報酬改定におけるポイントと経営対応」について講演していただいた。

中林氏は、「今回の診療報酬改定のポイントは、働き手の人口が減少する中での人材確保のための賃上げ、業務効率化のための医療介護DX、寝たきりを予防するための自立支援・重度化防止の取り組みの3つである。ただし、急性期一般病棟における重症度、医療・看護必要度の基準が厳格化されたほか、新設された入院料や加算等も基準が厳しく取得できないものがあるなど、全体として厳しい改定内容となっている」とした。改定への対応として、「特に、自身の病院が働きたいと思う医療機関か、地域から頼られている医療機関であるかという視点で見直していただきたい。また、働き方改革の意味を確認し、職員の意識確認や働くモチベーションを作るための工夫に取り組んでいただきたい。」と述べた。また、例えば、新設された救急患者連携搬送料（いわゆる下り搬送の評価）を算定するためには、あらかじめ連携先医療機関と協議しておく必要があることなど具体的に留意点を説明した。

また、講演後にはグループディスカッションを実施した。他厚生連の同規模病院と診療報酬改定への対応の中で実際に困っていること（課題、他施設に聞きたいこと）等をテーマに意見交換が行われた。

参加者からは、講演内容について、「実際の届出を終え、振り返りも兼ねて視聴できたのでとても良い講演だった」「中林先生のご講演は、いつも我々病院事務職員が読み切れていない細部まで疑義解釈や要件等を教えてくださり、とても参考にさせていただいている」「具体的で実例をもとにしていただき、とても理解しやすかった」等の感想が寄

せられた。グループディスカッションについては、「他病院の内容を聞いて大変有意義な時間となった」「他病院の状況を知ることができてよかった」等の感想が寄せられた。

全国厚生農業協同組合連合会

厚生連事務部門応援プログラム

事務部門における 2024年度診療報酬改定に おけるポイントと経営対応

講師 (株)ASK梓診療報酬研究所
所長 中林 梓



ASK梓診療報酬研究所 所長 中林 梓 氏

令和6年度以降のDPCデータの入手・管理等 について協議

事業企画委員会（実務者PT）を開催

令和6年7月3日に、大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（実務者PT）を開催した。

会議では、①DPCデータの取得・管理（経過報告）、②通常総会決議文、③令和5年度（第76年度）貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告—等について協議が行われた。

DPCのデータの取得・管理については、5月21日の事業企画委員会（合同）、5月31日の厚生連常勤役員・参事会議において、今後のDPC分析ツールの活用について説明を行った。これを受け、各病院及び本部の実務者に対し、今後の手続きや活用方法についての説明会を6月17日及び18日に開催し、7月1日付けで契約し利用を開始した旨を説明した。DPC分析の活用事例として、以下の2点について発言があった。

① DPCの分析については、事務部門とコンサルでそれぞれ分析したデータを共有。それを踏まえ、DPC委員会という院長の諮問機関において協議を行い方向性が決められて、改善案が作成される。策定された案は、部課長会と医局会で展開していき、それにより、様々な診療科の医師と職員で情報が共有される。

大きな病床の病床規模の地域の基幹病院になっているにも関わらず、DPCに本格的に取り組もうとした時には、県内の公的病院のDPCⅢ群病院の中でも、下から2番目の順位。そこからDPC委員会を機能させDPCの評価を上げて、維持してきた経過があるので、今後も努力して継続していきたい。

② コンサルティング会社と本部が契約し、病院のコンサルを依頼している。これだけではなく、病院の中にワーキンググループを作ってDPC分析等を活用しながら対応している。メンバーは院長、副院長、診療部長等であり、経費削減委員会、診療救急体制委員会などの部会を設けて、コンサルと医事課と院長で議論している。この方法に関しては結構効果があったと感じている。

7月25日に開催する本会通常総会決議文（案）について、説明した。出席した委員からは、「もともと消費税自体は、経営に重くのしかかっている。それに加えて、今回の水道光熱費や材料費の増大による負担が増大している。それと、地域医療構想を進

めるための施設整備をしなくてはならないにもかかわらず、消費税負担がついて回る。要するに、従来あった課題にいくつか加算をされた状態が今の状態。これは本当に重い経営負担になっている」等の意見が出された。

令和5年度(第76年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告については、その他連合会の事業活動の概況に関する重要な事項として、(1) 医師の働き方改革に伴う医師確保への予算措置要望やタスク・シフティング、タスク・シェアリングの必要性、(2) サイバーセキュリティ対策への予算措置要望について説明した。出席した委員からは、「DX化に対する制度改正要望を考えていただけないかと思っている」、「医師不足、看護師不足はもちろんあるが、並行して人手不足を解消するためのシステムの導入とその前段の整理を早く進めるよう国に訴えていかなければいけない」等の意見が出された。

事業企画委員会 次第

日時：令和6年7月3日(水)
14時から
場所：JA全厚連会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告事項

- (1) J A厚生事業にかかる令和5年度の活動について
- (2) D P Cデータの取得・管理について（経過報告）
- (3) 通常総会決議文について

4. 協議事項

- (1) 令和5年度(第76年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告について
- (2) 令和7年度税制改正要望について
- (3) その他

5. 閉 会

令和6年度事業企画委員会 名簿（実務者PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

【参考】

令和6年度事業企画委員会 名簿（医師PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

令和6年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

財務会計の基礎について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEB開催

本会は7月18日、19日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第1クール）をWEBで開催し、15厚生連から59名が参加した。

本研修会は、研修会参加者が将来において、病院・施設の運営及び管理を担う能力をそなえるため、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。講師は有限責任監査法人トーマツ パブリックセクター・ヘルスケア事業部 シニアスタッフの吉村氏とスタッフの麦野氏が担当した。

研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第1クールでは、財務会計の基礎をテーマに、①簿記の基礎（複式簿記を理解しよう）、②貸借対照表の基礎、③損益計算書の基礎、④キャッシュフロー計算書の基礎、及び⑤財務諸表の基礎演習について研修を行った。

初日は、簿記の基礎（特に複式簿記）を中心に、貸借対照表と損益計算書の相互関係、取引の仕訳処理や損益計算書・貸借対照表の読み方について演習を行った。

2日目は、キャッシュフロー計算書の基礎について、キャッシュフロー計算書の各表示区分の持つ意味を学び、黒字倒産の実例をもとに、損益計算書だけでは企業の健全性は判断できないこと、また、間接法によるキャッシュフロー計算書の作成について演習を行った。その後、グループに分かれて、財務諸表の読み方についてディスカッションを行い、各グループより報告を行った。

参加者からは、「経理事務が経営管理の基礎になっていると感じた」「各財務諸表との関連図がとてもわかりやすく、色々と自分の知識につながりできかなり良かった」等の感想が寄せられた。

次回（基礎編第2クール）は、財務分析の基礎をテーマに、9月12日、13日の開催を予定している。

損益計算書は利益を5段階に区分することで、利益の発生原因を明らかにし、財務諸表の利用者に役立つ情報を提供しています

損益計算書の構成要素①（利益）

項目	金額
売上	100,000,000
売上戻	(10,000,000)
売上割引	(10,000,000)
営業利益	80,000,000
営業外収益	5,000,000
営業外費用	(5,000,000)
経常利益	80,000,000
特別利益	1,000,000
特別損失	(1,000,000)
税引前当期純利益	80,000,000
法人税及び住民税等	(10,000,000)
当期純利益	70,000,000

イメージ

- 売上総利益＝売上高－売上原価
→ 売上総利益は、一般的に「粗利」とも呼ばれます
→ 製品やサービスを提供することでいくらも利益が発生したのかを表します
- 営業利益＝売上総利益－販売費及び一般管理費
→ 営業活動（「本業」）によってどれだけの利益が発生したのかを表します
- 経常利益＝営業利益＋営業外収益－営業外費用
→ 営業活動（「本業」）以外で獲得した収益・費用も加味することで、経営的に「安定的にどれだけの利益を獲得できているか」を表します
- 税引前当期純利益＝経常利益＋特別利益－特別損失
→ 臨時で発生した収益、費用も加味することで、税金を支払う前にどれだけの利益を獲得できているかを表します
- 当期純利益＝税引前当期純利益－法人税及び住民税等
→ 税金を支払った後に手元に残る、最終的な利益を表します

Deloitte

研修のようす

第76回通常総会を開催

令和5年度(第76年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告を承認

I. 第76回通常総会の開催について

7月25日、本会は、東京・大手町のJAビル「401会議室」において第76回通常総会を開催した。

総会の開会にあたり、長谷川浩敏 代表理事会長が挨拶をした後、来賓として、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」会長の森山裕 衆議院議員、幹事長の宮下一郎 衆議院議員並びに山野徹 JA全中代表理事会長より祝辞をいただいた。



祝辞を述べる森山裕・衆議院議員



祝辞を述べる宮下一郎・衆議院議員

II. 議事内容

議事に入り、① 第1号議案「令和5年度(第76年度)貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び注記表並びに事業報告の承認に関する件(案)」、② 第2号議案「理事の補欠選任に関する件(案)」、③ 第3号議案「監事の補欠選任に関する件(案)」、④ 第4号議案「退任役員に対する役員退職慰労金の支出に関する件(案)」、⑤ 第5号議案「定款の一部変更に関する件(案)」を上程し、いずれも全会一致で承認された。



祝辞を述べる山野徹・JA全中代表理事会長



挨拶をする長谷川浩敏・代表理事会長

Ⅲ. 決議文の採択

議事に引き続き、決議文の採択が行われた。

決議では、JA厚生連と緊密に連携した中で、保健・医療・高齢者福祉事業を組合員や地域住民に安定して提供できるよう取り組むとし、JA福島厚生連の管野会長が読み上げを行った。

具体的には、① 社会情勢の変化や地域医療の実態を診療報酬に反映することができる新しい制度の確立に向けて取り組む、② 過去の災害を踏まえた予防的対応や、新興感染症への柔軟かつ速やかな対応が行えるよう、安定した経営のもとに、対応できる病院づくりに取り組む、③ 「健康経営」について情報収集や検討を行い、第30回JA全国大会決議に反映することで、健康増進に取り組む等が決議された。



決議文を読み上げる管野啓二・JA福島厚生連経営管理委員会会長

【決議文】

決 議 文

本会は、JA厚生連と緊密に連携し、保健・医療・高齢者福祉事業を組合員や地域住民に安定して提供できるよう、ここに決議する。

1. 水道光熱費、材料費、人件費の増大は病院経営を圧迫している。公定価格である医療では、費用の増大の影響を価格に転嫁することができず、経営は非常に厳しい状況にある。

そのため、社会情勢の変化や地域医療の実態を診療報酬に反映することができる新しい制度の確立に向けて取り組む。

さらに、控除の対象外となる消費税については、地域医療構想に沿った病院再編の際にも多額の負担が発生している。経営の安定化を図る、課税方式への転換も含めた抜本的な対策に取り組む。

1. 近年においても東日本大震災・熊本地震・能登半島地震といった大地震や、豪雨による水害が発生している。

災害時に地域の病院が機能し続けることは、被災地域の住民の安心・安全につながるため、過去の災害を踏まえた予防的対応や、新興感染症への柔軟かつ速やかな対応が行えるよう、安定した経営のもとに、対応できる病院づくりに取り組む。

1. JA厚生事業は、農家組合員等の健康増進に貢献するため、健診等にJAグループ全体で取り組むとともに、「健康経営」について情報収集や検討を行い、第30回JA全国大会決議に反映することで、健康増進の取組みを支援する。

令和6年7月25日

全国厚生農業協同組合連合会 通常総会

IV. 役員の新体制について

総会では、田中義彦氏、松田清見氏及び歸山好尚氏が理事に、内田英憲氏が監事に新たに選任された。総会後の理事会において、代表理事理事長に歸山好尚氏（学識経験者）を選任した。役員の新体制については、次のとおり。

JA全厚連・新役員体制一覧

代表理事会長	長谷川浩敏（JA愛知厚生連 経営管理委員会会長）
副会長理事	神農 佳人（JA長野厚生連 経営管理委員会会長）
代表理事理事長	<small>きやま</small> 歸山 <small>よしなお</small> 好尚（新任・学識経験者）
理事	西本 護（JA北海道厚生連 代表理事会会長）
理事	管野 啓二（JA福島厚生連 経営管理委員会会長）
理事	八木岡 努（JA茨城県厚生連 経営管理委員会会長）
理事	平本 光男（JA神奈川県厚生連 経営管理委員会会長）
理事	伊藤 能徳（JA新潟厚生連 経営管理委員会会長）
理事	堀尾 茂之（JA岐阜厚生連 経営管理委員会会長）
理事	<small>たなか</small> 田中 <small>よしひこ</small> 義彦（新任・JA広島厚生連 経営管理委員会会長）
理事	<small>まつだ</small> 松田 <small>きよみ</small> 清見（新任・JA徳島厚生連 経営管理委員会会長）
理事	西本 満俊（JA愛媛厚生連 経営管理委員会会長）
理事	山野 徹（JA鹿児島県厚生連 経営管理委員会会長）
理事	二川 一男（有識者）
理事	三浦 進（有識者）
代表監事	平岡 武（JA山口厚生連 経営管理委員会会長）
監事	佐藤 佳二（全国共済農業協同組合連合会 常勤監事）
監事	<small>うちだ</small> 内田 <small>ひでのり</small> 英憲（新任・(株)JA新聞連 監査役）

○農林水産大臣感謝状の交付について

総会に先立ち、令和6年能登半島地震において災害派遣医療チームを被災地に派遣し、医療支援を行った厚生連に本会を加えた18厚生連に対して、農林水産大臣の感謝状が交付されることとなり、派遣職員数が最多であったJA長野厚生連の神農会長に対し、新川協同組織課長から感謝状が手交された。



感謝状を受け取る神農佳人・JA長野厚生連経営管理委員会会長

感謝状が交付された18厚生連は次のとおり。

事業者名	所属	代表者名
北海道厚生農業協同組合連合会	代表理事会長	西本 護
秋田県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	小松 忠彦
福島県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	管野 啓二
茨城県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	八木岡 努
上都賀厚生農業協同組合連合会	代表理事会長	廣田 光一
佐野厚生農業協同組合連合会	代表理事会長	熊倉 悦司
神奈川県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	平本 光男
長野県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	神農 佳人
新潟県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	伊藤 能徳
富山県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	佐野 日出勇
岐阜県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	堀尾 茂之
静岡県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	鈴木 政成
愛知県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	長谷川 浩敏
三重県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	谷口 俊二
広島県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	丹下 和博
山口県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	平岡 武
徳島県厚生農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	中西 庄次郎
全国厚生農業協同組合連合会	代表理事会長	長谷川 浩敏

通信員だより

防災ヘリコプターによる搬送訓練を実施しました

(JA秋田厚生連・かづの厚生病院)

防災ヘリコプターは、消防活動・救急活動を支援するために主に消防庁や県が保有しており、山岳救助や水難救助、山火事での消火活動や航空救急等に用いられるヘリコプターです。かづの厚生病院（吉田雄樹病院長）では、ヘリポートから救急患者の受け入れのほか、毎年5月頃に県所属の防災航空隊と鹿角消防署、当院看護師が連携し合同訓練を行っています。

訓練では、医師役、看護師役、救急隊役、患者役に分かれ、まず患者をストレッチャーに乗せ、防災ヘリコプターへ搭乗させます。上空では、患者の容態を常に観察し、強い揺れがあったときには不安にならないよう声掛けをし、実際起こりうる状況をシミュレーションして行いました。防災ヘリコプターでは、ドクターヘリコプターと違い、フライトドクターと呼ばれる医師が同乗せず、患者の状態がわからないまま搬送されます。このため、少しの患者の状態の変化などにも気付くことが大切になります。

近年秋田県では、毎年春頃から秋にかけてクマによる被害や山での遭難者が多発しています。鹿角市は過疎地域であり、近隣の大学病院などへ陸送するには1時間ほどかかるため、山間部で重傷を負った場合の搬送には、防災ヘリコプターの役割が非常に重要になっています。

引き続き有事の際に迅速かつ適切な対応ができるよう県や関係機関と連携しながら、訓練を重ねてまいります。



訓練の様子

(淡路明美通信員)

第72回福島県農村医学会総会開催

(JA福島厚生連)

JA福島厚生連は6月15日、白河市のJA夢みなみしらかわセレモニープラザで福島県農村医学会総会と学術発表会を開催し、JA福島厚生連の病院、老人保健施設の医師、看護師ら約400名が出席しました。同学会の重富秀一理事長、大木進司学会長（白河厚生総合病院長）、高久忠JA福島厚生連理事長があいさつをしました。重富理事長は「日々進歩する医療に対してその知識と技術を学び情報を共有し、有意義な学会にしてほしい。」と述べられました。

特別講演では福島県立医科大学理事兼副学長・消化管外科学講座の河野浩二主任教授を講師にお迎えし、「外科治療の最前線」と題した講演をいただきました。

午後には会員の学術発表が行われ日頃の研究の成果を発表し、討議を重ねました。



福島県農村医学会総会開催の様子

(大内崇通信員)

健康相談を開催

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連では7月6日～7日、全農いばらき農機総合センター特設会場で開催された「第48回農機・生産資材大展示会ダイナミックフェア2024」に参加しました。本会では、体調不良者やけが人等の救護班を兼ねながら、血压測定と健康相談を実施しました。

両日とも厳しい暑さとなりましたが、会場には多くの来場者が訪れ、本会の特設コーナーには2日間合わせて292人が集まりました。

来場者からは、「自身の健康について、色々と相談する事ができ、ありがたかった。しかし、まずはこの暑さに注意しなければならないね」との声が聞かれました。



健康相談を行うJA茨城県厚生連スタッフ

(酒井一彦通信員)

さつまいもの苗植え

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）の院内保育所では、自然に親しみ、実体験を通して「食」に対する豊かな心を育んでいくことを目的とした食育・栽培活動の一環として「さつまいもの苗植え」を行いました。

JA相模原市の職員の方々も来園し、子ども達に苗の話や植え方の指導をしていただきながら、一緒に苗植えを楽しみました。天候に恵まれ暑い中でしたが、子ども達は積極的に苗植えをし、秋の収穫を楽しみにしていました。



苗植えの様子

(増田佳一通信員)

伊勢原協同病院 ELNEC-J コアカリキュラム 2024 を開催しました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、6月29日・7月6日の2日間にわたり、看護部主催で「ELNEC-J コアカリキュラム 看護師教育プログラム～すべての看護師のための緩和ケア研修 その人らしさを大事にするケアのために～」を開催しました。

このELNEC-Jのプログラムを構成する10の講義のほか、少人数によるケーススタディやグループディスカッション、ロールプレイが行われ、患者さんに「その人らしいエンド・オブ・ライフ・ケア」を提供するために必要な知識と技術を学びました。

他病院から15名の看護師がプログラムに参加し、当院のがん看護専門看護師・がん疼痛看護認定看護師らとグループワークなどを行う中で、実践的な看護について理解を深めました。



研修の様子

(増田佳一通信員)

長野県A・コープから車椅子を寄贈いただきました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連は、長野市のJA長野県ビルで車椅子の目録贈呈式を7月4日に執り行われました。この取り組みは、(株)長野県A・コープの誕生祭企画の「車椅子を贈ろう」募金の取組みのひとつとして、平成14年度から当会施設へ車椅子を寄贈いただいております。

はじめに、長野県A・コープの山崎進代表取締役社長は「組合員と地域住民の命を守る最前線で奮闘されておられることに感謝しております。このキャンペーンは毎年春に行っており、今年で23回目となります。今年も組合員の皆様から、約197,000円の募金をお寄せいただきました。末永くご愛用いただければ幸いです」と挨拶されました。

また、洞和彦代表理事理事長は「かなりの数の車椅子を贈呈いただいておりますが、車椅子は消耗品です。高額な消耗品ですが、使用頻度が高いものです。このようなご援助をいただける機会をいただき有り難く感謝しております」とお礼の言葉を述べました。

今年度は、南長野医療センター篠ノ井総合病院に2台、鹿教湯三才山リハビリテーションセンターに1台の合計3台を寄贈いただきました。地域の皆さまからご配慮をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後も皆さまへ安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



目録贈呈の様子(左から山崎代表取締役社長、洞代表理事理事長)

(山岸愛通信員)

2024年度 幹部看護・介護職員育成研修会を 開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連は、6月26日～28日の3日間、「幹部看護・介護職員育成研修会」をJA長野県ビルで開催し30名が参加しました。この研修会は、JA長野厚生連の看護・介護の次世代を担うリーダー育成を目的とし、各事業所から推薦された幹部候補の職員を対象に開催しています。近年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催としていましたが、今年度は5年ぶりに集合での開催となりました。

ワークショップ形式で行う本研修は、主題を「新人教育」とし「新人をどのような看護・介護職員に育てたいか」というテーマについて、グループ毎に熱い議論を交わしながら、新人教育に関するテーマを決定し、それに沿う目標を立て、達成するための方略や評価の手法について考えました。各セッションの全体発表では、ディレクターやタスクフォースからの助言や参加者からの質問等、活発な意見交換がされました。



研修会の様子

また研修中は、日本農村医学研究所の柳澤和也主任研究員による「体のメンテナンスについて」の講演もあり、日常生活のなかに取り入れられる簡単なストレッチなどを実践し、リフレッシュの時間となりました。

研修の運営に携わるディレクター・タスクフォースの方々には、参加者が研修にスムーズに参加できるよう、当日を迎えるまで何度も打合せを重ね周到な準備をしていただきました。参加者からは「新人の教育過程において、順番に講義、グループワーク、発表と進むことで一つひとつ理解しながら進められた」「タスクフォースの方々に的確なアドバイスをいただき考え方の修正ができた」「久しぶりに対面で研修が受けられて、仲間と共に苦楽を味わえたことが何より貴重な経験だった」など、有意義な研修であったという声が多く聞かれました。

参加者は、研修で学んだ知識・スキルを活かし、それぞれの職場での課題を抽出し、1年を通して改革に取り組みます。この研修を通じて、次世代リーダーへの成長を期待しています。



参加者で記念撮影

(山岸愛通信員)

「高校生の一日看護見学」を開催しました

(JA富山厚生連・厚生連高岡病院)

厚生連高岡病院（柴田和彦病院長）では、7月4日と8日に富山県と富山県看護協会が主催する県内の高校生を対象とした「高校生の一日看護見学」を行いました。高校生が看護業務と看護に対する理解を深め、看護職への進路選択の参考にすることを目的に、両日ともに40名ずつ計80名の1年生から3年生までの将来看護師を目指す生徒、医療関係の職業に興味を持っている生徒が集まりました。

まずは新人看護師からの中学生の時から看護師を目指した思いと実際に看護師として働くやりがいについて、熱い思いを伝えました。高校生から一番近いフレッシュな看護師からの体験談は、患者さんへの看護をより一層魅力的に感じたと思います。

病棟での看護体験では、看護師と共に患者さんの体を拭いたり、足浴をし、実際に患者さんと触れ合うことが出来ました。緊張しながらも真剣に看護師に習いながら行っていました。患者さんから「ありがとう」や「頑張って看護師さんになってね」と言われ、はにかみながら笑顔で対応していました。また高校生同士で血圧を測ったり、車いす操作方法を学び、初めての体験に生き生きとした表情が見られました。

交流会では、「やっぱり看護師になりたい」「看護師になった気分になれた」などと参加できてよかったと多くの声が聞かれました。

今後も当院として未来を担う看護師の育成への一助になるよう、地域に貢献できる活動を続けていきたいと考えております。



看護見学の様子

(中西康志通信員)

JAとぴあ浜松と遠州病院の協定調印式

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連遠州病院)

JA静岡厚生連遠州病院(大石強病院長)は大規模災害等における物資の供給に関する協定をJAとぴあ浜松と7月8日にJAとぴあ浜松本店にて締結いたしました。

締結により遠州病院が大規模災害時にJAとぴあ浜松からの物資提供をしていただくことで、医療機能を可能な限り維持できる食物等の提供が可能となります。

調印に先立ちJAとぴあ浜松 渥美保広経営管理委員会会長より「大規模な災害が発生した際、この地域に根差した農業協同組合として、地域住民の皆様へできる限りの支援をしていく使命があり遠州病院に対しても災害に可能な限り、食材や物資の支援をしていかなければならないと考えます」と挨拶がありました。

また、遠州病院 大石強病院長は「物流がストップした際には食材提供をいただけることになり、更なる万全な体制構築に努め、地域住民の生命を守るという使命を全うすることをお約束します」と話しました。



調印式の様子

(望月俊宏通信員)

医療機能連携協定調印式

(JA静岡厚生連・JA静岡厚生連静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院(水野伸一病院長)と地方独立行政法人静岡市立静岡病院は7月22日に医療機能連携協定を締結しました。

締結により両病院の連携強化を図り、相互の医療機能を最大限に活用し、より安心・安全で質の高い医療の提供を目指します。

調印後、静岡市立静岡病院 小野寺知哉理事長兼病院長より「現在、日本は高齢化を迎えています。しかし、医療資源は無限ではありませんので、一つの病院で完結するのは大変難しくなっています。今回、急性期医療を中心としている当院と回復期医療に強い静岡厚生病院と医療機能連携を結ぶことにより、患者さんに効率的で安心できる医療を提供できると考えている。」と挨拶がありました。

また、静岡厚生病院 水野伸一病院長は「当院は、旧静岡市内では唯一のケアミックス型の公的病院で、急性期から回復期、在宅まで切れ目ないサービスを提供することで、地域医療に貢献したいと考えています。当院の医療機能をいかに活用していくか模索していたところ、高度急性期病院の静岡市立静岡病院との医療機能連携協定を結ぶこととなりました。両病院の医療機能を発揮し、適切で良質な医療を提供することに期待しています。また、より良い地域包括ケアを目指すべく努力していきます。」と話しました。



調印式の様子

(望月俊宏通信員)

脳卒中市民講座を開催しました

(JA三重厚生連・鈴鹿中央総合病院)

鈴鹿中央総合病院（北村哲也病院長）では、6月15日鈴鹿市ふれあいセンターにて、第22回鈴鹿市脳卒中市民講座を開催しました。

当講座は、地域住民の皆さまに脳卒中に対する関心や理解を深めていただくものです。当日は、「始まった医師の働き方改革『脳卒中にならない！なった時！！』」をテーマに「健診（脳ドック）」「予防」「治療」「生活支援」について医師・社会福祉士が専門分野をわかりやすく講演し、参加した114名は熱心に耳を傾けられていました。

講演後30分設けた質疑応答も活発に行われ、終了時刻間際まで質問をいただき、盛況のうちに終了となりました。

参加者からは、「日常生活で気をつけることが参考になりました」、「初めての聴講でしたが、大変勉強になりました。ソーシャルワーカーからの視点は面白かった。」といった声が聞かれました。また、「食事療養」「生活習慣」「リハビリの効果」「生活支援」についてさらに詳しく聞きたいといった声もあり、次回開催に向けて参考としてまいります。

当院は、今後も様々な疾患をテーマとした市民講座を開催し、市民の皆さまの声を聞きながら、一緒になって地域の健康増進に努めてまいります。



市民講座の様子

(井澤智子通信員)

管理・監督者研修会を開催しました！

(JA鹿児島厚生連)

去る令和6年7月12日、令和6年度 管理・監督者研修会を開催いたしました。

この研修は、鹿児島厚生連病院の管理・監督者の経営情報の共有を図ることと、職員の資質向上を目的としたものです。

研修内容は、『令和5年度末決算の状況および令和6年度事業計画について』を竹之下経営管理部長が説明した後で、全国厚生農業協同組合連合会 中村純誠 代表理事理事長を講師に招き、『JA厚生事業の現状と課題』をテーマにご講演頂きました。

講演はJA厚生事業の沿革に始まり、各地域における厚生事業の意義やこれからの事業への対応についてなど、本会の管理・監督者にとって非常に役立つ内容でした。

講演後の質疑応答では具体的な事業への対応や他県厚生連の事業内容についてなど、様々な質問があり、中村理事長も丁寧にご回答して頂き、短い時間ながら有意義な研修となりました。

今後も様々な研修を通して厚生連職員の資質向上に努めていきます。



研修会の様子

(中條讓通信員)